産業
観光
まちの魅力

Q 〈時光 良造 議員〉

筆産業に対する支援の提案

A 〈町長〉

関係機関と協議のうえ行っていく。

【Q1】
筆組合のマイスター事業が平成31年度で終了となる中、後継者不足解消のため、町が事業者に対し人件費を補助したらどうか。

【A1】
個々の事業者に対してではなく筆業界全体に支援していく。

【Q2】
「くまの・こども夢プラザ」2階の就業支援施設で、宿泊を交えた筆づくり就業体験事業を募集企業の主導で実施してはどうか。

【A2】
関係機関と協議を経て、条件が整ったものから行っていきたい。

【Q3】
イタチを代表する原材料の不足と高騰に対し、それに代わる化学繊維、バイオ技術を使った原毛等を開発するため、町費で情報収集を行うことはできないか。

【A3】
化学繊維の需要が増えれば、町としても協力したい。

【Q4】
筆組合との情報交換だけではなく、小規模事業者との意見交換の場を設けてはどうか。

【A4】
小規模事業者との意見交換について、前向きに検討する。

▶後継者不足が課題の筆職人

Q 〈民法 正則 議員〉

熊野市など自治体間交流の今後の展開は

A 〈町長〉

行政間の交流を深めるとともに、住民間の交流に発展させたい。

【Q1】
今春、三重県熊野市長との間で相互に表敬訪問がなされた。交流の意図や将来展望は。

【A1】
熊野市は、本町以外で唯一「熊野」を名称とする地方公共団体であり、熊野市を含む紀州熊野地方とは平安時代からの縁と伝わる。町制施行100周年を契機に交流を進め、協力関係を築きたい。

【Q2】
交流の具体的な構想はあるか。地場産業や観光などの分野での連携も考えられるか。

【A2】
産業振興や観光での連携のほか、災害時の相互援助、住民間の親善交流やスポーツ交流などが考えられる。今後、具体的な構想を立てて実現に努める。

【Q3】
石巻市、鈴鹿市及び鳥取市とは「文房四宝まつり」を通じて交流をしている。この伝統産業分野の交流の将来展望は。

【A3】
隔年で持ち回り実施する「文房四宝まつり」は、熊野筆のPRのためにも継続実施して産業交流を進める。

【Q4】
東京都豊島区とも交流を模索しているようであるが、どのような交流を考えているか。

【A4】
東京都の特別区長会と広島県町村会の連携協力協定の一環で、芸術文化活動が活発な豊島区との交流を模索している。ソメイヨシノの発祥の地でもあり、桜を介した交流も進めたい。

Q 〈立花 慶三 議員〉

「観光交流拠点整備構想」は

A 〈町長〉

住民参加型ワークショップを立上げるとともに、情報発信の充実を図っている。国に交付金の採択要望を行い、本年度、事業採択された。

【Q1】
交流人口は導入部であり、定住促進が目的であると聞いているが、何を根拠に定住に結び付けるのか。

【A1】
観光振興施策においては交流人口の増加を図ることが目的である。そのなかで熊野町にかかわりを持つ人を多くするのが重要と考えている。

【Q2】
熊野町観光基本戦略検討委員会ではどのような意見が出たのか。

【A2】
空き家、農家住宅を活用した宿泊機能の充実。工房周辺での軽食、飲食等の提供など、仮設で対応できるものは移動販売車とかコンテナショップで試行的に取り組み、そのうえで整備を検討する。

▲拠点となる筆の里工房周辺

【Q3】
過去に入場者数が多かったイベントは。

【A3】
最大は筆まつり。筆の里工房の企画展において著名人によっては期間中2万人を超える。

【Q4】
もう少し拠点施設の売り、特色が出せるように強い戦略を作ってもらいたい。

【A4】
観光地づくりワークショップ、観光コンテンツ創造事業において、公募による住民からの意見を取り入れ、具体化していく。

Q 〈荒瀧 穂積 議員〉

広島県知事との対談内容は

A 〈町長〉

トップ会談は、町制施行100周年にふさわしい内容となった。

【Q1】
熊野町は、町制施行100周年を迎えた。責任者の町長は、湯﨑広島県知事を迎え町史に残るトップ対談を行った。（記念誌に掲載予定）
全町民が共有すべき共通認識（ビジョン）が示されたものと考える。
その内容と発行部数、配布先を問う。

【A1】
湯﨑広島県知事とトップ会談ができ、大変有意義であった。
内容は、
一．100年の変貌と現状
二．県・町のビジョン
三．観光推進
四．幹線道路整備
五．地場産業
六．今後100年の方針
記念誌は1千部発行し、式典参加者等に配布予定である。

▲三村町長と湯﨑広島県知事の対談時の様子

議会審議
一般質問
特別委員会報告
議会・委員会活動